

家族が笑顔になる、  
ウールのカーペットが  
ある暮らし

日本人が慣れ親しんだ「床座の暮らし」を現代の住宅に——そんな思いから家中にカーペットを敷き詰めた一家の、笑顔溢れる暮らしを紹介します。

堀田将矢(ほった まさや)  
カーペットの企画・製造・販売を手掛ける『堀田カーペット株式会社』専務取締役。2015年より妻の優子さん、6歳の善介君、3歳の柊佑君、2歳の茜ちゃんと、カーペット敷きの生活を実践している。



「昭和の時代はカーペット敷きの家も多くありましたが、今は減多に見る」ことがありません。フローリングのほうがホコリが立たないし、手入れも楽と思ってる方が多いようですが、そんなことはないんです」。開口一番、そう訴えたのは、織物産業が盛んな大阪・堺市で、カーペットの企画・製造・販売を手掛ける堀田将矢さん。カーペットの魅力を広く知ってもらうために、自らカーペット敷きの生活を実践しています。2015年に建てた自宅は、階段も含めすべてウールのカーペット敷きという徹底ぶり。キッチンや洗面所にまで敷き詰めました。

カーペットの利点は、「どこにでも座れること。そして椅子を置く必要がない分、空間を広く使えること」だと、堀田さん。「お客さんが大勢来ても適当に座ってもらえますし、座布団やスリッパも必要ありません。それに、滑りにくくてクッション性もあるので、うちのように小さい子供がいたり、お年寄りがいるご家庭には向いていると思います」。

堀田さん夫妻と3人の子供たちも、基本は床座。ソファも置いていますが、これも床に座った時に背もたれにすることを前提に選んだものだそうです。家族みんなで座卓を囲んでごはんを食べ、疲れたり眠くなったりした時は、床にゴロンと寝そべってくつろぐ——畳文化が培った古き良き時代の日本の生活を、堀田さん一家はカーペット敷きの家で再現しているのです。

写真\_松本昇大\_取材\_文\_横崎西尚